

プレリュード[®]

液剤 成 分 有効成分：6-(N-ベンジルアミノ)プリン…………3.0%

農林水産省登録 23657号
適用種別：植物成長調整剤
種類名：ベンジルアミノプリン液剤

プレリュード特長

- りんご、なし：側芽の発生を促進させ、育成樹の早期結実が可能となります。
- アスパラガス：萌芽を促進し、夏秋どりに効果的です。
- きく：親株栽培の側枝への腋芽の着生を促進し、側枝数を確保できます。
- こちょうらん：着蕾を促進させ、花数の多い高品質な鉢物が生産できます。
- カーネーション：側芽の発生を促進し、二番花の側枝数を確保できます。

適用及び使用方法

作物名	適用場所	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンジルアミノプリンを含む農薬の総使用回数
りんご (苗木)	—	側芽発生促進	50～100倍	5～10ml/苗木	新梢伸長時	10回以内	新たに伸長した新梢部に散布	10回以内 (立木全面散布は1回以内)
りんご				100～400l/10a			立木全面散布	
なし (栽培育成時の非収穫年樹)		高接1年枝側芽発生促進		200～700l/10a	伸長旺盛期 (6月上旬以降)		発芽部位に噴霧	
ぶどう (デラウェア)	露地栽培園	側芽発生促進	30倍	3ml/側芽	側芽発生時	1回	ジベレリン処理の第1回処理液に添加して蕾(果房)を浸漬処理する	1回
ぶどう (マスカット・ベリーA、旅路(紅塙谷)、バッファロー(アーリースチューベン))		無種子化処理の第1回ジベレリン処理時期の早期への拡大	300倍	—	満開予定日の14～17日前			
ハウス栽培の花振り発生園		花振り発生園			満開予定日の11～14日前			
ハウス等施設栽培の花振り発生園	露地栽培の花振り発生園	花振り防止						
おうとう (苗木)	—	副梢発生促進	25～50倍	200～800ml/苗木	新梢伸長時 (主幹延長枝の30～80cm伸長期)		立木全面散布	
アスパラガス		萌芽促進	300～600倍	100～300l/10a	夏秋どり、慣行最終収穫予定日の10～30日前(但し、収穫前日まで)	6回以内	茎葉散布	6回以内
きく		親株栽培における側枝への腋芽の着生促進	2000～4000倍		摘心時			
カーネーション		側芽発生促進	300倍	6ml/株	側芽発生前	2回以内	花茎の先端部に噴霧	2回以内
こちょうらん		着蕾数増加	1000倍	0.5ml/花茎	発蕾時	5回以内		

令和元年12月4日現在

△効果・葉害等の注意

- 調製した薬液は放置すると効果が低下するので、調製当日に使いきってください。又、調製液は日陰においてください。
- 他の農薬との混用はさせてください。(ジベレリンに添加し、ぶどうに使用する場合を除く)
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤をぶどうに使用する場合には、次の注意を守ってください。
 - ①花振り防止に使用する場合は、常に花振りが発生する園のみに使用してください。なお、ハウス初年度の木には使用しないでください。
 - ②無種子化処理の第1回ジベレリン処理液に混用して処理時期を拡大する場合、ジベレリン単用での処理適期より3～4日早く処理することができます。
 - ③所定の処理時期から遅れて処理すると着粒過多になったり、果粉の付着果房の着色が悪くなるおそれがあるので必ず適期に所定濃度で処理してください。又、処理適期がすぎたものには、使用しないでください。
 - ④ジベレリン処理液に添加した際、よく攪拌して使用してください。
 - ⑤上記注意のほか使用に当っては、ジベレリンの使用上の注意を厳守して使用してください。
- 本剤をりんごに使用する場合には、次の注意を守ってください。
 - ①新梢が十分分れる様に散布してください。
 - ②摘心を行うとより効果的です。
 - ③作用が出にくい品種、つがる、王林等では、所定濃度の高濃度で使用してください。
 - ④新たに伸長した新梢部に散布して側芽発生促進を行う場合、品種、使用地域によって使用回数、効果、葉害が異なることがあるので、地域指導機関の指導を必ず受けてください。
 - ⑤苗木に使用する場合は、食用には供さないでください。
- 本剤をなし(栽培育成時の非収穫年樹)に使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ①本剤は側芽の発生を促進させ早期成園化させる目的であるため、非収穫年の苗木植付け後の育成時に使用してください。
 - ②本剤処理後に結実した果実は、適切に廃棄処理し、食用に供しないでください。
 - ③本剤をアスパラガスに使用する場合には、若茎にかかると奇形を生じることがあるので茎葉下部への散布は控えてください。

- 本剤をさくに使用する場合には、無側枝性が強く発現する品種及び高温期の栽培では効果が劣る場合があります。
- 本剤をカーネーションに使用する場合には、次の注意を守ってください。
 - ①側芽の発生を促す節位を中心に散布してください。
 - ②同一節位への本剤の連続散布は、側枝発生過多、黄変、草丈抑制等の葉害を生じる場合があるのでさせてください。
 - ③高温時に散布すると、葉に黄変、褐変等の葉害を生じる場合があるので、注意してください。
 - ④品種、栽培条件によって、葉害を生じる場合があるので、予め安全を確認の上使用してください。
- 本剤をこちょうらんに使用する場合には、次の注意を守ってください。
 - ①第7花の発芽に花茎の先端部に7～10日間隔で噴霧してください。
 - ②増やしたい花数に応じて本剤の使用回数の範囲で使用回数を増やしてください。
 - ③本剤処理により花数が増えると、花の大きさがやや小さくなる傾向があるため注意してください。
- 本剤をおうとう(苗木)に使用する場合には、次の注意を守ってください。
 - ①未結果樹で使用してください。
 - ②葉に褐斑を生じる場合があるが、その後の生育には影響ありません。
 - ③食用には供さないでください。
- 本剤の使用に当っては用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 保 管…密栓し、火気を避け、食品と区別して、直射日光が当たらぬ冷涼な場所に保管してください。

●使用前にラベルをよく読む ●ラベルの記載以外には使用しない ●小児の手の届く所には置かない



アグロ カネショウ株式会社

<https://www.agrokanesho.co.jp/>

⑥: アグロ カネショウ(株)の登録商標です。

AJ19L02 (プレ1)

